

# カタルーニヤの独立は是か非か 揺らぐ国家の枠組み、EUが後押し 州議会選挙から考える

志子田 徹

北海道新聞ロンドン支局

スペインからの分離・独立を求める

夜の一時をすぎても、熱気は収まらなかった。  
十一月二三日、スペイン北東部にあるカタルーニヤ自治州の州都バルセロナ。オリンピックで使われた屋内競技場を埋め尽くした地域政党カタルーニヤ同盟（C i U）の支持者約一万八〇〇〇人は、バルセロナ市長ら演説者が次々と登壇する度に、赤と黄色のストライプ模様のカタルーニヤ「国旗」を振り続けている。かれこれ二時間、ようやく代表のマス州首相が登場すると、欧州はじめ北米やアジアなど世界中から駆け付けたメディアが一斉にフラッシュをたいた。

「世界がカタルーニヤを見ている。それぞれ民族には自分たちの運命を決める権利がある」。マス州首相がボルテージを上げると、会場から「独立、独立」と大きな声援が沸き起こり、国旗も波のようにうねる。「政治力もカネも中央政府には



スペインからの独立が争点となったカタルーニヤ州議会選挙最終日、カタルーニヤの「国旗」がたくさん波打った独立推進派の大集会（11月23日、スペイン・バルセロナで筆者撮影）

かなわないが、私たちは民主主義という無敵の武器を持つている。投票で多数を占めよう」。選挙戦を締めくくる演説は約一時間に及び、興奮は最高潮に達した。この時点では誰もが、二日後のC i Uの勝利を確信していた。

スペインからの分離・独立の是非が最大の争点となったカタルーニヤ州議会選挙。世界の注目を集めた今回の選挙は、マス州首相が任期を二年残す中で議会を解散して臨んだ、「サブライズ選挙」だった。解散に踏み切った背景には、独立に向けた民意の盛り上がりがある。二カ月前の九月一日の「カタルーニヤの日」、バルセロナの中心部に史上最大規模の約一五〇万人が集まり、スペインからの独立を求めるデモを行ったのだ。

空前のスケールに、政治家たちは衝撃を受けた。カタルーニヤでは以前から独立問題がくすぶっているが、マス州首相率いる州議会与党C i Uは、急進的な独立の動きとは一線を画してきた。だが、独立を求める住民の熱気に押されて方針を転換。まずはマス州首相が九月二〇日に首都マドリッドに足を運び、中央政府のラホイ首相に、州自治の拡大に向けてバスカ自治州と同様に徴税権の移譲などを直談判した。ところが、ラホイ政権は申し出を即座に却下。返す刀でマス州首相は独立派が圧勝することを見越して解散を決断し、中央政府にカタルーニヤの民意を突きつける戦略を取ったのだ。

## 集権化、不公平な税制と財政配分に反発

なぜ分離・独立を求めるのか。カタルーニヤに

は歴史的な経緯と最近の経済情勢という、二つの事情がある。スペインとフランスに挟まれたカタルーニャは中世以降、独自の言語・文化圏を築き地中海で大きな勢力を持ったが、約三〇〇年前の一七一四年九月一日にスペインに敗れ、自治権をなく奪われた。その後、十九世紀の産業革命で発展し文化の復興機運が盛り上がり、二十世紀に入ると独立運動が活発になったが、一九三九年からのフランコ独裁政権下で、言語の使用が禁じられるなど抑圧された。

フランコ没後、新憲法に基づいて自治憲章が定められ、カタルーニャ語は州の公用語となった。さらに二〇〇六年の憲章改定で教育や医療といった行政分野などでも自治権を拡大した。だが、昨年末に誕生した保守系のラホイ政権は地方分権が行き過ぎたとして中央の権限強化に舵を切りつつある。「政府はマドリドばかり優遇して、カタルーニャを差別している」。バルセロナ市内でインタビューした大学生ジョルディ・ウルペイさんは、政府の集権化への反発を隠さなかった。

さらに、独立の動きを加速させたのは、地方の財政悪化だ。各自治州の財政が危機に陥ったため、中央政府は各自治州に緊縮策を要求。カタルーニャ州も公務員の人員削減や給与カット、医療費の負担増などを打ち出した結果、反対するデモが相次ぐなど中央政府主導の財政再建策に反発が広がった。とくに、州財政悪化の原因が「不公平な税政」にあるといった不満が噴出した。

スペインの地方財政は各自治州が税収の一部を国庫に拠出した上で、中央政府が再配分する仕組み。

み。カタルーニャの経済も低迷が続く中で、この再配分のあり方がやり玉に挙がった。「カタルーニャの富が他の貧しい州に奪われている」という民族主義が盛り上がった形だ。

C i Uはじめ、急進的な独立派であるカタルーニャ左翼共和派（E R C）など、独立推進の各党はこの「不公平税政の改革」を全面に打ち出して支持拡大を図った。「カタルーニャが拠出して戻ってくる税金は、たった四五%分しか再配分されて戻ってきてない。中央政府は貧しい州を優遇して、誰も使わない空港や車の走らない道路ばかり造っている」。E R Cの広報担当オリオル・アモロス州議は、税政の問題点を強調した。

サプライズ効果もあり、選挙戦は当初はマス州首相の思惑通りに進んだ。各種世論調査では定数一三五のうち、与党C i Uが単独過半数の六八議席をうかがう勢いだ。こうした情勢を受けて、マス州首相はさらに踏み込み、「勝利した暁には二〇一四年までに、独立の是非を決する住民投票を実施する」と打ち出した。

だが、中央政府は独立に激しく反発した。カタルーニャはスペイン経済の大黒柱で、各自治州の中で最も経済規模が大きく、国内総生産（G D P）の約二割を占めている。仮にカタルーニャが分離すれば、スペインの経済危機に拍車がかかるのは明らか。中央政府は住民投票の実施に関して「憲法で認めてない」と主張し、独立は法的にも正統性がないといったキャンペーンを展開した。「中央政府vs地方政府」は両者がつぶりよつのまま、選挙戦当日を迎えたのだった。

## 州議会の三分の二が独立推進派に

選挙はふたを開けてみるまで分からない、というのは本当だった。一月二五日、歴史的な勝利を味わおうと、与党C i Uが陣取ったバルセロナ中心部の高級ホテルは、開票が始まる午後八時には支持者らで立錐の余地もなかった。ところが、地元メディアが出口調査結果を報じると、ため息が広がった。C i Uの勝利どころか、現有議席を



独立の是非を問うたスペイン・カタルーニャ州議会選挙の終了後、記者会見するマス州首相。独立推進派の合計では過半数を大きく超えた（11月25日、スペイン・バルセロナで筆者撮影）

大幅に割り込むとの見通しなのだ。普段は陽気なバルセロナつ子も沈痛な表情で開票速報の流れる大型スクリーンを見つめている。やはり伸びない。結局、単独過半数どころか、選挙前勢力から一二議席も減らして五〇議席という大惨敗を喫したのだ。「私たちの党は議席を減らしたが、独立推進派の全体では勝利した」。午後一―二時を過ぎた頃、疲れ切った表情で支持者の前に現れたマス州首相の言葉に力はなかった。

CiUが大方の予想に反して惨敗した理由については、選挙戦の最終盤に突如浮上した、マス州首相のスキャンダル発覚が大きかったとみられている。納税逃れのための銀行口座をスイスに不正に開設したとの疑惑だが、独立に断固反対する中央政府側がマスコミにリークしたとささやかれている。

一方で、日本の二〇〇五年の郵政選挙のように、サプライズ解散して「独立か否か」というシングル・イシューに持ち込んだマス州首相が、策におぼれたとの指摘もある。中央政府の求めに応じて、マス州首相は医療費値上げや学級人数の拡大など、暮らしに直結する分野で緊縮路線を推進してきた。「もともとは独立に慎重だったマス州首相だが、緊縮財政による生活圧迫という不人気政策を覆い隠そうとして、独立というカタルーニャの人々が飛びつくテーマを持ち出し、選挙に打って出た。しかし、有権者はだまされなかった」。バルセロナ自治大のホアン・カルロス・ガバラデカラ教授は有権者が冷静だったと分析する。

ただ、急進独立派のERCは議席を倍増させて

第二党に躍進した。議席を減らしたとはいえ与党CiUは第一党を維持しており、両党で過半数は超え、他の独立推進派も合計すれば、全一三五議席のうち三分の二近い勢力を占める勝利となった。民意は明らかに「スペインからの独立」を支持したのである。中央政府との対決は今後ますます激しくなるのは避けられない。

### 地域分離・独立とEU

カタルーニャの独立運動が突きつける課題の一つとして、地方の税財政配分のあり方がある。豊かな地域の税収を貧しい地域にどう配分するか、透明性の確保や決定方法は難しい問題だ。今、欧州が直面している、豊かなドイツや北欧などの「北部欧州」と、債務危機国であるギリシャやスペインなど「南欧」との対立も、同様の構図と言える。

また、カタルーニャだけでなく、欧州ではここに来て、地域の独立の動きが相次いでいる。スペインでは以前から独立問題がある北部バスク自治州でも、一〇月の州議会選で独立急進派が躍進した。やはり一〇月に行われたベルギー統一地方選でもフラマン地域の独立を掲げる政党が勢力を拡大。一足早く独立の動きが具体化している英国北部のスコットランドでは一〇月一―四日、英国からの独立の是非を問う住民投票を二〇一四年に実施することで、キャメロン英首相とスコットランド自治政府のサモンド首相が合意した。歴史的、文化的背景から独立を求める動きに加えて、欧州債務危機などで続く景気の低迷を、地域が自立を模

索することで打開しようとしている共通性を見ることができると言える。

一方で、地域の独立運動が盛り上がるのは、国を超えた枠組みである欧州連合(EU)が、国家に代わるセーフティネットになっている側面が大きい。カタルーニャで独立を支持する住民は五〇%台後半に達するが、「EUに加盟できなくても独立を支持する」という問いでは四〇%台前半まで支持が減少する。独立派の選挙戦の集会では、カタルーニャ国旗に混じってEUの旗も目立ち、分離・独立とEU加盟は不可分の関係にあった。「地域が独立を目指す上で最も大きな障害になりうるのは安全保障の問題だが、欧州はEUや北大西洋条約機構(NATO)のおかげで平和になった」(ベルギー・ルーバンカトリック大のバンサン・ラボルドリ研究員)。独自の強力な軍隊が不要になったことが、独立運動のハードルを下げたと言える。

EUは、二度の世界大戦を経験するなど国家間の紛争を繰り返してきた欧州で、平和と安定に貢献したことが評価されて二〇一二年のノーベル平和賞を受賞した。さらに安定を目指して、経済・財政統合にとどまらず、政治統合まで議論を広げ、統合の深化を進めている。だが、そのことが逆に、地域で分裂の動きを加速させている皮肉な状況を生んでいる。統合と分裂の両方に遠心力が働く今、近代国家のあり方が問われている。

へしこだ とおる